

第六十一回 近視でも遠視でもなく裸眼で顎関節症の場合の症状 レーシックや度数や焦点が合わないメガネの危険性

裸眼で顎関節症の場合、左右の顎関節のメス側の骨である側頭骨は全く前後逆方向に捻れているものです。

逆方向に捻れますと左右の眼球の片方は前後的に短く、左右横方向は長くなり、もう一方の片方は前後的に長く左右横方向に短くなっているものです。

その為に左右の視力差が出るものです。

正常ならば、両方の眼球は左右均等なボール球の様になり、右も左も視力は同じになるはずですが。

左右の視力が違うか、又は左右の視力は同じであって、片方の眼だけがかすんだりしますと、そこで例を上げて申しますと、右眼が異常をおこなっているならば右の肺、右にある肝臓に異常反応をおこなすものです。左眼が異常をおこなっているならば左の肺、左の脾臓に異常反応をおこなすものです。

メガネも同じです。

この様に眼に異常をおこなっていると右の肺、右の肝臓、そして、左の肺と脾臓は1つでセットものです。

そして、顎関節を治す前と後では左右の異常反応が逆になる場合があります。

肺が悪いと必ずその側の腕と肩の境目の関節、又はその側の股関節に異常をおこなすものです。股関節の足側の骨である大腿骨の骨頭(bone head)は、その側の歯の噛み合せた時、奥歯の歯が高いと後にさがり、逆に前歯の方が高いと骨頭は前方に移動します。このタイプの患者様は、あお向けで寝ていまずと自然に足をくの字に曲げるクセがあります。

逆に奥歯の方が高いと足首に負担がかかりやすくなるものです。

そしておでこの前頭骨は前に飛び出し舌・鼻・喉の異常をおこなすものです。顎関節症を治し、首の骨、背骨を正しくアジャストした上で、左右の裸眼での視力及びメガネの左右のレンズが正確度数にあったならば、ねこ背も身長が伸びたようによくなるものです。

ねこ背は眼と深い関係があるだけではなく、すべてではありませんが、しづとい病気と深い関係があるようです。

特にメガネの度数が合っていないとしづとい病気がいつまでも付き纏うものです。

眼の視力矯正レーザー手術であるレーシック(英語:LASIK)は、すべての人とは言えませんが、ほとんどの人は頭蓋骨はギューと圧縮され首の骨、背骨は前方にズレをおこなす為に各骨は動きが悪い為に全身の血流が悪く冷え性だけではなく、内臓にも機能低下をおこなすものです。特に

女性は不妊になりやすいと言われているものです。又、レーシックは目の表面(角膜)をレーザーで削るもので、入れ墨と同じように一度削ると一生消せないものです。

これと似たものは歯のインプラントです。

材質に関係なく、一度でも上下の歯をカランと咬めば、頭蓋骨はキューと圧迫され、首の骨、背骨は前方にズレ、体中の関節が動きが悪く全身の血流が悪く内臓の機能低下をおこすものです。

(噛むたびにハンマーで頭を殴られたような衝撃がある場合も)

常に水泳をやっている人が歯のインプラントを装着すると、泳いでいて身体が沈むようになるという話をよく聞くものです。(全身が緊張状態にある証拠だといえます)

インプラントを取り除きますと今度は浮き、体が軽いと実感できると言います。そして誰もが一度経験するでしょう、親の生きている時の体の重さと死んだ時の重さ。

死んだ時の重さは石を持ち上げている様な重さです。

血流がよく流れている場合、流れが悪い場合、これ程大きな差が出るものです。

この様にレーシック、歯のインプラントだけが悪物ではありません。

体に合わない薬、サプリメント、〇〇酵素等も皆同じです。

歯も同じです。歯の治療の為、そこだけ上下の歯を咬み合せても当たらないようにしますと、首の骨、背骨は前方にズレをおこすものです。最後に新しい詰め物をかぶせても首の骨、背骨は元の健康体に戻るという事はないものです。安易な咬合紙のみの噛み合わせの確認は、場合によっては危険な行為だといえるでしょう。

何かをしない限り元の健康体には戻らないものです。

戻ると血流が流れて頭もスーっとスッキリするものです。